

社会貢献実践	1年・通年	2単位 30時間	教授 植松盛夫
科目カテゴリー	自由科目	科目ナンバリング	35021161

1. 授業のねらい・概要

学生が、大学が認定する団体（公共機関、民間団体、NPO など）でのボランティア活動等に参加することによって、地域社会になじみ、関わり、それを深め、地域課題を発見するというプロセスを通じて、問題解決に向けた構想力と実践力を身につけることをねらいとする。

このような学びは、現実にある問題に直面した際に、既存の「マニュアル」にない方法で解決を導くトレーニングであり、今後の学生諸君のライフ・キャリアにおいて重要な力となる。これはまた、現在、本学が積極的に取り組んでいるアクティブ・ラーニング（能動的な学習）の1つでもある。

以上の趣旨から、本講義は、教員が一方的に学生に知識の伝達をする講義スタイルではなく、学生が自発的に取り組み、グループ学習や現地実習、ディスカッション、結果報告会（プレゼンテーション）などを行うことにより、単位が認定されることになる。

2. 学修の到達目標

1. 一市民として社会貢献実践に参加する意義や活動のなかでの自己の役割やありかたについて理解し、説明できるようになる。(D-1)
2. 社会貢献実践の学外実習(5日間以上)を行い、大学での学びを実習現場で活用できるようになる。(D-1)
3. 実習結果と振り返りを実習報告書に報告・提出し、次回の社会貢献実践の学外実習に応用できるようになる。(D-1)
4. 社会貢献実践の活動結果報告会で1年間の実習結果を発表し、その意義・役割・課題を理解し、活用できるようになる。(D-1)

3. 授業の進め方

授業は、ICT を活用して事前に配布した資料を基に対話及びディスカッションを通してまとめ上げる形で行う。

実習では、学生が希望する実習先の活動期間および活動事項について、大学が認定するボランティア機関の認定を受けてから届け出る。たとえば、下記のようなボランティア活動が考えられる。

- ① 県内の行政との協働
- ② 地域の商工会との協働
- ③ 地域イベント（祭り等）へのボランティア（県、市町村など）
- ④ 関連する学会やボランティア活動の発表会への参加
- ⑤ 県内大学と連携するボランティア活動
- ⑥ 地域NPO・ボランティア団体への参加
- ⑦ その他の地域活動への参加

【アクティブ・ラーニング実施の有無】

アクティブ・ラーニングとして、事前学習型授業、対話・議論型授業、グループワークを用いる。

【ICT活用の有無】

ICT 活用の実施：Classroom 等による，学習課題や学習教材の提示・配信，学習課題の提出等

4. 授業計画（講義・演習）

回	授業内容	授業形態	事前事後学修（学修課題）	担当
1	ボランティア活動の基礎	講義 演習	予習：ボランティアとは何であるか考えておく。 復習：自身のライフキャリアレインボーの作成。	植松盛夫
2	ボランティアの歴史と諸概念	講義	予習：ボランティア元年について調べる。 復習：ボランティアと奉仕活動の違いについてレポートする。	植松
3	ボランティアの実践事例	講義	予習：配布資料を読んでおく。 復習：身近なボランティア活動について調べる。	植松
4	災害ボランティアについて	講義	予習：配布資料を読んでおく。 復習：震災の際のボランティア活動について調べる。	植松
5	活動計画書の作成	演習	予習：実習先一覧を確認し選択する。 復習：活動計画書を完成させる。	植松
6	ボランティア活動と SDGs	講義	予習：SDGs について調べる。 復習：ボランティア活動と対応する SDGs を考える	植松
7	災害に強いまちづくり	講義	予習：配布資料を読んでおく。 復習：災害ボランティアについて調べる。	植松
8	ボランティア実習（新町七夕まつり）	実習	予習：ボランティアの登録と行動計画の確認を行う。 復習：「実習報告書」の作成と提出。	植松
9	ボランティア実習（学習支援）	実習	予習：ボランティアの登録と行動計画の確認を行う。 復習：「実習報告書」の作成と提出。	植松
10	ボランティア実習（高崎祭）	実習	予習：ボランティアの登録と行動計画の確認を行う。 復習：「実習報告書」の作成と提出。	植松
11	ボランティア実習（子ども食堂）	実習	予習：ボランティアの登録と行動計画の確認を行う。 復習：「実習報告書」の作成と提出。	植松
12	ボランティア実習（しんまち商工祭）	講義	予習：ボランティアの登録と行動計画の確認を行う。 復習：「実習報告書」の作成と提出。	植松
12	ボランティア実習（白鳥見守り隊）	講義	予習：ボランティアの登録と行動計画	植松

			の確認を行う。 復習：「実習報告書」の作成と提出。	
14	活動報告書の作成	演習	予習：ボランティア実習の振り返り 復習：プレゼンテーション資料の完成。	植松
15	活動結果報告会	演習	予習：プレゼンテーションの練習。 復習：ボランティア活動によって得られたものを確認する。	植松

※ボランティア実習については例示である。

5. 成績評価の方法・基準

活動計画書、実習報告書などの提出課題内容（60%）と活動報告会での発表（40%）により評価する。

ただし、ボランティア実習が5日間（30時間）に満たない場合は、単位は認定できない。

成績評価は「2.学修の到達目標」に示した達成状況を、ルーブリック評価表（到達はA評価）を基に採点する。なお、ルーブリック評価表に関する詳細は、第1回講義内で別途説明する。

6. テキスト・参考文献

- 参考文献：1) 田村正勝（2009）：ボランティア論-共生の理論と実践，ミネルヴァ書房
2) 前林清和・中村浩也編（2021）：SDGs時代の社会貢献活動，昭和堂
3) 久米隼（2021）：これだけは理解しておきたいボランティアの基礎，日本橋出版

7. 準備学習に必要な時間，又はそれに準じる程度の具体的な内容

講義計画の講義テーマについて参考文献及び配布資料を講義までに読んでおくこと（60分程度）。

5日間以上（30時間以上）の外部実習を行い，実習後に「社会貢献実践実習報告書」を作成（1件について60分程度）提出し，それに基づいて発表（発表のための資料作成に120分程度）する。

8. 受講上の留意事項

学校行事として「学研災」の学生傷害保険が適用されるが，その条件として実習先や日程を大学側に届け出て，必ず承認を得ることが必要である。

9. 課題に対するフィードバックの方法

「社会貢献実践実習報告書」など提出課題はコメントをつけて返却する。

活動結果報告会では，講評を行う。

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。

11. 該当する本授業は，以下の実務経験を活かして実施される

該当しない。